

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターリスト研究		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	ギターリスト研究	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	自身のバンドでギター・ヴォーカルとして活動後、サポートギタリストとして、ライブ、レコーディング、講師、メジャーアーティストへの演奏指導、MVへの出演、音楽誌の新機材検証企画でのレコーディングなど様々な活動を展開。					
授業概要						
エレクトリックギター黎明期から現代まで、英米のギターリストを中心に音楽史を探究する。 それぞれの時代において、各音楽ジャンルが発生した経緯や、社会的・歴史的な背景などを学び、サウンドや機材についての解説も行う。						
到達目標						
年代や各ジャンルにおける代表的なアーティスト、作品、ギタリストを把握し、自らのプレイスタイルの確立に活用する。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	1950年代 ・ロックンロール黎明期の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ロックンロール誕生に繋がった、ブルース、R&B、ゴスペルなどの代表的なアーティストを学ぶ。					
【前期】 5～8回目	1960年代 ・1960年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ブルース・ロックとリヴァプール・サウンドの誕生。					
【前期】 9～12回目	・ブリティッシュ・インヴェイジョンの代表的なバンドを学ぶ。 ・サイケデリック、アートロックなどロックの多様化と社会運動との結びつき。					
【前期】 13～16回目	1970年代 ・1970年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ハード・ロックの確立と黄金期。・ロックの大衆化。					
【後期】 17～20回目	・プログレッシヴ・ロック、グラム・ロックの代表的なアーティストを学ぶ。 ・ジャズ・フュージョン。・パンク・ロックとニューウェイヴ。・AORの出現。					
【後期】 21～24回目	1980年代 ・1980年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・ヘヴィ・メタル・ブーム。・オルタナティブ・ロックの出現。					
【後期】 25～29回目	1990年代 ・1990年代の代表的なアーティストを学ぶ。 ・グランジ・ブーム。・UKロック・ブーム。・コアパンク(メロコア)・ブーム。					
【後期】 30～34回目	2000年代～現代 ・2000年代～の代表的なアーティストを学ぶ。・ラップ、メタル、メロコアなどのラウド・ロック全盛期。 ・インターネット、SNSを活動の中心としたアーティストの出現。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターインプロヴァイズ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	ギターインプロヴァイズ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	音楽専門教育を修了後、ギタリストとしてサポート・セッション・レコーディング等、幅広い演奏・制作活動を経験。 多様な現場で培った知識と実践力を活かし、実技指導に従事。				
授業概要					
ポップスやロックミュージックで使用頻度の高いスケール(音階)を中心に、スケールポジションの確認と音程を把握する。又、コードとの関係性を理解しながら、コード進行の中でのアプローチを組み立てられるスキルを身に着ける。					
到達目標					
アドリブソロやフレーズ、指定されたテーマフレーズやソロへの対応力の習得。 ・メトロノームを使い音符の長さを意識しながら各スケールの音程を身に着けていく。・指板上のブロックポジショニングから縦の移動を意識したフレーズ作りを意識。 ・弾き覚えのあるフレーズからよりコードの響きを意識した音選びを考える。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	1年次に学習したスケールポジションと理論的な解釈の確認。(メジャー系) ・メジャースケール・メジャーペンタトニックスケール ・コード進行に合わせた実演と応用。				
【前期】 5～8回目	1年次に学習したスケールポジションと理論的な解釈の確認(マイナー系) ・ナチュラルマイナースケール・マイナーペンタトニックスケール ・コード進行に合わせた実演と応用。				
【前期】 9～12回目	ブルース系(ドミナントコード含む)スケール ・メジャーブルース・マイナーブルース ・コードポジションを意識したフレーズの組み立て方。				
【前期】 13～16回目	マイナースケール3種(ポジション練習を始めとし、それぞれのスケールの特徴を捉えて弾き分ける。) ・ナチュラルマイナースケール・ハーモニックマイナースケール ・メロディックマイナースケール				
【後期】 17～20回目	ダイアトニックコードと機能について ・指板上でのコードトーンの確認とテンションノート。・各テンションコードの押え方とルール。 ・モードスケールその1(ミクソリディアン・ドリアンモード)				
【後期】 21～24回目	転調に対応したフレーズを考える(ディミニッシュ・ホールトーン含む) ・並行調での弾き分け方。・同主調での弾き分け方。 ・移調に対応するためには。				
【後期】 25～29回目	モードスケールその2 ・フリジアン・リディアン ・それぞれのスケールがマッチするコード進行を考える。				
【後期】 30～34回目	総集編 ・自分がプレーする上で、最も得意なスケールを持つ。・コード進行を様々な視点から分析し、最もマッチしたスケールを割り当て弾く。 ・自分が弾いたフレーズを説明出来るのかを検証。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	アンサンブルⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	70回(140単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、ヴォーカルコース シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ソロプロジェクトとして作曲・レコーディング・マスタリングなどを自身で手がける。ライブ活動を並行しつつ動画や業界の知識を配信等の活動も行っている。					
授業概要						
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。						
到達目標						
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～30回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて					
31～32回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。					
【前期】 33～34回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。					
【後期】 35～66回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて					
【後期】 67～68回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。					
【後期】 69～70回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターベーシックⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ギターベーシックⅡ				年次
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	長年フリーのギタリストとして活動し、ライブやレコーディングなど多様な現場を経験。 幅広い音楽制作やサポートを通じて、実践的な演奏力と柔軟な対応力を培っている。					
授業概要						
1年次の教材である「Guitar course Basic1」の続編である「Guitar course Basic2」を中心に、基礎力を徹底に身に付ける実技授業。						
到達目標						
1年次で学んだ基礎的知識、技術の習得の徹底。それをもとに実践的な応用力を習得するノウハウを身に付ける事を目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	メジャースケールとインターヴァル ・1年次に学んだインターヴァルの理解向上を、メジャースケールを使いトレーニング。・併せて指板上の音の理解向上。 ・複数ポジションでトレーニングにより指板上での音程、音名の理解を深める。					
【前期】 5～8回目	トライアドとインターヴァル ・スケール上で理解したインターヴァルを、4種類のトライアド上でも理解を深めるトレーニング。 ・6弦、5弦、4限ルートポジション。・ルート音の変化による音名の変化の対応力を養うトレーニング。					
【前期】 9～12回目	テトラッドとインターヴァル ・トライアドで理解したインターヴァルを、テトラッドに広げてトレーニング。 ・6弦、5弦、4限ルートポジション。・ルート音の変化による音名の変化の対応力を養うトレーニング。					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	3種類のトリックマイナースケール(ナチュラル、ハーモニック、メロディック) ・3種類のトリックマイナースケールのインターヴァル、音名を確認しながらトレーニング。 ・複数ポジションでのトレーニング。					
【後期】 17～21回目	テンションコード ・コードトーンとテンション ・テンションの種類(ナチュラルテンション、オルタードテンションなど)。					
【後期】 22～25回目	チャーチモードとBluenote Scale ・各モードスケールのインターヴァルの理解・ダイアトニックコードとの関係とアプローチの実践。 ・Blues進行及びBluenoteとBluenote Scaleについて					
【後期】 26～30回目	ドミナント7thスケール ・メジャートライアドを含むコードに解決するドミナント7thスケール(Mixolydian Scale、Lydian ♭7Scale) ・マイナートライアドを含むコードに解決するドミナント7thスケール(Harmonic Minor Perfect 5th Below、AlteredScale) ・その他のドミナント7thスケール(whole tone scale、Harmonic minor perfect 5th below)					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	アヴェイラブルノートスケール(今までの総まとめ) ・あらゆるコードに対するスケールの選び方、アプローチの方法。 ・循環コード、典型的なコードパターンを使った実践。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW II		授業形態 / 必・選	講義		必修
	学則上表記	DAW II		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また楽曲の作編曲、ミックスマスタリングなど自身で行うなど幅広く活動している。					
授業概要						
DAWでのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるように)なる知識、実践方法を学ぶ。他コースと関わり、合同での「作曲」や「レコーディング」の実現。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフトの操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法 ・簡単なループを組み合わせた制作法を学ぶ					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～20回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節＋α)の課題曲の作成					
【前期】 16～17回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 18～25回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ 各楽器にフォーカスを合わせたオリジナル曲の合同作成 ・1コーラス(フルコーラス)を目標にオリジナル曲の合同作成					
【後期】 26～30回目	ツミックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 31～35回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	楽曲制作		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	楽曲制作		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験13年 自身のバンド活動を行いながら、サポートギタリストとしてプロの道へ。現在はアニソンアーティストなどのサポートギターリストとして活動中。					
授業概要						
PCおよびDAWを活用し、ギタリストとしての視点を生かした楽曲制作、ギターアレンジ、レコーディングを行うための知識と技術を習得する。						
到達目標						
楽曲制作からミックスまでを行い、第三者に鑑賞してもらえる品質の作品を完成させる。また、録音データを実務的な納品水準まで仕上げる技術を習得する。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	DAWに触れる際の専門用語を解説					
【前期】 5～8回目	DAW初期設定について解説(サンプルレートやビットレートの確認の仕方) & テンプレート作り(クリックトラック、RECトラックの作り方)					
【前期】 9～12回目	オーディオエディットの解説(トリミング、コピー、ペースト、クロスフェード、逆再生)					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	ループ音源(オーディオファイル)を使用し、オーディオファイルエディットを駆使した楽曲制作、提出。					
【後期】 17～21回目	DAW上のギターRECについて解説。 (オーディオインターフェースの使い方、ギタートラック、ベーストラック作成について)					
【後期】 22～25回目	ギターREC後のエフェクト処理について解説。(コンプレッサー、リバーブなど)					
【後期】 26～30回目	MIX作業について解説。 (パンニング、EQ処理について)					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	オーディオREC楽曲(ギターRECしたもの)の制作、MIX作業を行い提出。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターパフォーマンスⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ギターパフォーマンスⅡ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	サポートギタリストとしての活動を軸に、レコーディングや楽曲制作、編曲、指導など多岐にわたる分野で経験を重ね、演奏・教育・制作を横断した総合的な音楽活動を展開している。					
授業概要						
ギターパフォーマンスクリニック(ステージイベント)に向けてライブパフォーマンスに特化した実技を行います。リズム、ソロ、サウンドメイキング、ステージでの立ち振る舞い、衣装や自己プロデュースにおける楽曲決めや集中力の使い方をブラッシュアップ。						
到達目標						
校内のみならず、ライブハウスやイベントにて高い水準のパフォーマンスが可能な実力の習得。 自己プロデュースによる「得意・不得意」の理解、苦手を得意に変え、精神と技量共にギタリストとしてのポテンシャルの向上を図る。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	個人の前期での目標設定 ・演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性 ・過去に行われた学内発表会にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)					
【前期】 5～8回目	授業内発表会の演奏楽曲決めと対策 ・自己分析から曲決め、ジャンル、テンポ、演奏スタイル、使用アンプを含むを決定する。 ・自分で購入したエフェクター使い方や種類を理解して、自身の楽曲を更に彩らせる為の研究。 ・購入したエフェクターが無い場合の対処法・ライブハウスやスタジオでよく目にするアンプとの使い方、サウンドメイキング法の伝授					
【前期】 9～12回目	授業内発表会の反省と次回発表会の対策 ・前回の反省会や今後への課題、見直し・音源に合わせてコードの習得、インプロヴァイズ(アドリブ)の練習。 ・ステージパフォーマンスにおけるの見せ方以外に、曲での見せ方間かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混せて解析)					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	楽曲に必要な主要スケールと実際のイベントを想定した緊張感の中で演奏する。 ・実際に動画を録り、「自分を客観視する力」を養う・演奏楽曲に使われるメジャー&マイナーペンタトニックスケール全ポジションの理解(反復) ・自身のギターパフォーマンスにて演奏する曲の披露、講師から学生へのアドバイス等					
【後期】 17～24回目	個人の後期での目標設定 ・自由曲の演奏楽曲決めやパフォーマンスに必要な要素の学習・再度確認すべき、客観視されたチューニングの重要性、クリックに合わせた練習の必要性 ・過去に行われた授業内発表会にて注意、学習すべきポイントの整理。(服装、音色、音質、セッティングの速さ等、動画視聴)					
【後期】 25～30回目	ステージパフォーマンスにおけるの見せ方以外に、曲での見せ方間かせ方の理解(曲の際立つ部分等、理由や理論を混せて解析) ・音源に合わせてコードの習得、インプロヴァイズ(アドリブ)の練習。					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	授業内にて実践発表と卒業後の対策の開始 ・実際に自身の楽曲に合わせて授業で演奏し、それを動画に撮影して全員で改善点や良い点をそれぞれ探しライブに向けてのクオリティアップ ・実際に講師の前で演奏してもらい、2年間で学んだもののすべて(演奏や自己プロデュース能力等)を披露					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターアナライズⅡ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ギターアドバンス	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。					
授業概要						
実際に演奏をする際にスコアを見て何をどのように解釈して演奏する方が良いのか、楽曲構造(Keyやコード)がどうなっているのか、適合するスケールは、何が弾けるのかを考察解析しながら授業を進めます						
到達目標						
実際にスコアを見てその楽曲のテンポやFeel、Key、スケール、コード等は何か、転調はしているのか？楽曲構成は、どうなっているのかを把握出来て弾ける事を目指します						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	・Diatonic ChordsのTone Intervalで9thを含むコード(-9th、9th、+9th)、Diatonic ChordsのTone Intervalで11thを含むコード(11th、+11th)・コードプログレッションに各Tensionを付加させて実際に弾いてみる ・Degree表記でのコードプログレッションⅠ					
【前期】 5～8回目	・Diatonic ChordsのTone Intervalで13thを含むコード(-13th、13th) ・コードプログレッションに各Tensionを付加させて実際に弾いてみる(-9th、9th、+9th、11th、+11th、-13th、13th) ・Degree表記でのコードプログレッションⅡ					
【前期】 9～12回目	・Major Scale上のDiatonic Chords(Natural minor Scale上のDiatonic Chords)から導き出されたAvailable Note Scales ・各種Church Modeから導き出されたコードプログレッションⅠ ・Church ModeⅠ= Ionian、Dorian、PhrygianLydian、Mixo- Lydian、Aeolian、LocrianなどのTone Interval					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	・ Harmonic minor Scale上から導き出されるAvailable Note Scales(Locrian#6、Ionian#5、Dorian#4、HP5↓、Lydian#2、Ultra Locrian)・ Melodic minor Scale上から導き出されるAvailable Note Scales(Dorianb2、Lydian aug、Lydianb7、Mixo-Lydianb6、Locrian#2、SuperLocrian)・コードプログレッションⅡ Tensionを付加させ、各コードに適合するScaleを実際に弾いてみる					
【後期】 17～21回目	・Dominant 7th ScalesⅠ『Harmonic minor Perfect 5th Below(Phrygian Dominant)』Tensionの考察『Ⅱφ→V7』 ・Dominant 7th ScalesⅡ『Altered Scale』Altered Tensionを含むコードプログレッションⅠとScale、Tension『Ⅱφ→V7』、『ⅡIm7→V7→Ⅰ』 ・Dominant 7th ScalesⅢ『Altered Scale』Altered Tensionを含むコードプログレッションⅡとScale、Tension『Ⅱφ→V7』、『ⅡIm7→V7→ⅠIm』					
【後期】 22～25回目	・Dominant 7th ScalesⅣ『Combination Of Diminished Scale(Half WholeTone Scale)』コードプログレッション とScale ・Dominant 7th ScalesⅤ『WholeTone Scale』コードプログレッション とScale、Tension『ⅡIm7→V+→Ⅰ』 ・Sub Stitute Dominant 7th ScalesⅥ『Lydian b7th Scale』コードプログレッション とScale、Tension『Ⅱφ→bⅡ7→Ⅰ』、『ⅡIm7→bⅡ7→ⅠIm』					
【後期】 26～30回目	・Dominant 7th ScalesⅦ『Melodic minor Perfect 5th Below(Mixo-Lydian b6th)』コードプログレッション とScale、Tension ・Upper Structure TriadⅠ『Diatonic Chords上に構築されるUpper Structure TriadⅠ』コードプログレッション とScale、TensionⅠ ・Upper Structure TriadⅢ『Diatonic Chords上に構築されるUpper Structure TriadⅢ』コードプログレッション とScale、TensionⅢ					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	・Perfect 4th Interval Buildとは、何か？1年次の内容である3度堆積と音から4度堆積として和音を考える ・Perfect 4th Interval Buildのコードを実際に作ってみる(2音積み、3音積み、4音積みなど) ・ Perfect 4th Interval Buildを使ったコードプログレッション を当てはまるScale含めて実際に弾いてみる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	コード譜応用		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	コード譜応用	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	1980年代より音楽活動を開始し、サポート演奏やレコーディング、バンド・プロジェクトへの参加など幅広い分野で経験を積む。現在もライブ活動や楽曲制作、編曲をはじめ、多様な音楽活動に加え、メディア分野でも活動を展開している。					
授業概要						
PCでの楽譜作成ソフト『MuseScore』で譜面作成し、その譜面を用いたアンサンブル演奏を交互に行う授業。						
到達目標						
正確なマスター譜及びパート譜を作成する技術と読譜力。各楽器の特性を理解し、3パートにおける編曲力及びディレクションする能力。実奏を通じて譜面の完成度を自ら評価・修正できるスキルの3点習得を目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識の復習、確認。 ・五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど。 ・楽譜作成ソフト『Musescore』の基礎操作方法。					
【前期】 5～8回目	講義教室においてスタンダードな12小節『Blues』のマスター譜作成。 ・組段、レイアウトの調整、反復記号、各種記号の配置、コードの打ち込み方を確認。 ・アンサンブル教室において作成した譜面を使用して実演。					
【前期】 9～12回目	講義教室において各パートの記譜の知識を『Musescore』を使用して共有。 ・前回譜面作成して実演した『Blues』のマスター譜を各パート譜に書き換える。 ・各パート譜の作成スキルの共有。					
【前期】 13～16回目 (前期試験)	『各ジャンルのスタンダード曲の譜面を作成し、実際にアンサンブルをして学ぶ①Pops編』 ・1, 2週目、講義教室で各ジャンルの代表曲の譜面を『Musescore』で自ら作成 ・3, 4週目、アンサンブル教室で3コースで合奏					
【後期】 17～21回目	『各ジャンルのスタンダード曲の譜面を作成し、実際にアンサンブルをして学ぶ②Rock編』 ・1, 2週目、講義教室で各ジャンルの代表曲の譜面を『Musescore』で自ら作成 ・3, 4週目、アンサンブル教室で3コースで合奏する。					
【後期】 22～25回目	『各ジャンルのスタンダード曲の譜面を作成し、実際にアンサンブルをして学ぶ③Funk/Soul編』 ・1, 2週目、講義教室で各ジャンルの代表曲の譜面を『Musescore』で自ら作成 ・3, 4週目、アンサンブル教室で3コースで合奏する。					
【後期】 26～30回目	『各ジャンルのスタンダード曲の譜面を作成し、実際にアンサンブルをして学ぶ④Jazz/Fusion編』 ・1, 2週目、講義教室で各ジャンルの代表曲の譜面を『Musescore』で自ら作成 ・3, 4週目、アンサンブル教室で3コースで合奏する。					
【後期】 31～35回目 (後期試験)	『各ジャンルのスタンダード曲の譜面を作成し、実際にアンサンブルをして学ぶ⑤Latin編』 ・1, 2週目、講義教室で各ジャンルの代表曲の譜面を『Musescore』で自ら作成 ・3, 4週目、アンサンブル教室で3コースで合奏する。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅱ	年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
卒業後の進路活動について学ぶ。 それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	アーティスト特別セミナー					
【前期】 7～14回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【前期】 15～20回目	各コース発表会					
【後期】 21～25回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【後期】 26～30回目	各コース成果物提出					
【後期】 31～35回目	各コース発表会					
【後期】 36～40回目	コース別ファイナルイベント					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	分野別講座Ⅱ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～2回目	キャリアプランニング					
【前期】 3～14回目	ミュージックビジネス					
【後期】 15～28回目	ミュージックビジネス					
【後期】 29～33回目	ビジネス文書					
【後期】 34～35回目	所得税と源泉徴収・確定申告					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						